

2022年5月22日(日)

老球の細道670号

「ナンバー2」の心意気

会津バスケットボール協会 室井 富仁

色男、美男子を意味する言葉として「2枚目」というのがある。今でいうイケメン。一度は言われてみたいと思っていたが、かなわず爺の老境に入ってしまった。なぜ「2」なのか。

歌舞伎評論家の犬丸治氏によると、語源は江戸時代から続く歌舞伎に由来するという。当時の歌舞伎役者は興行する「座」と1年ごとに契約を結んでいた。各座は毎年、新メンバーが決まると番付を披露する。ここに載る主要な役者8人を「八枚看板」と呼び、1枚目は主役、2枚目は美男、3枚目はこっけいな道化役、4枚目は・・・と8枚目まで役どころが決まっていた。このうち2、3枚目の意味だけが残り、今も使われている。

当時の人たちは自分たちにはできない美男美女のラブロマンスや大悲劇を見て、涙を流し、リフレッシュして帰って行く。自分の願望を最大限かなえてくれるのが2枚目だった。ナンバー2にはナンバー2の底知れぬ魅力があったのである。

2009年民主党政権時代、事業仕分けの会議でスーパーコンピューター事業を巡って「世界一になる理由は何があるのですか。No2ではだめなのですか？」と放った政治家がいた。当時は流行語になり、バスケットで勝てなかった私はあちこちで言い訳に使っていた。

朝日新聞『GLOBE』にナンバー2にこだわるポテトチップス業界2位の「湖池屋」の話が掲載されていた。「かっぱえびせん」を誇る「カルビー」がポテトチップスに参入すると一気に頂点に駆け上がり、湖池屋は2位に陥落し大きく水をあけられた。こうした中で、他社より安く売ろうとして低価格競争をしたり、ライバル会社の動向を気にして追従したりしていたがトップとの差は広がるばかりだった。

そこで新しく社長に就任した佐藤章氏が改革を始めた。まず取り組んだのは「原点」に立ち返り、誇りを取り戻すことだったという。「湖池屋らしさ」にこだわり、本物を作ることを模索した。取り組みの内容を冊子にまとめて全社員に配った。その中の一文がある。

「新しい方へ行け。難しいほうへ行け。おもしろい方へ行け」

私流に命名すれば『イケイケ、イケメン3原則』。このスローガンを基にして「最高のポテトチップス」作りが始まった。そして社長は繰り返し説いた。「絶対トップのマネをしない。ナンバー2は、トップと違うことをする。オリジナリティを持つ。僕らは僕らのカウンターパンチを出すんだ」と。

そんなわけで高体連県大会を控えているナンバー2のチーム(タレントがいない、選手をリクルートできない、優勝経験がないがアップセットを狙う)、県大会出場を果たせなかったナンバー2のチームにも湖池屋の「イケメン3原則」参考になるのではないだろうか。

ナンバー1になれなかった私がいつも目指していたことは、①規律の文化を確立する②チームで戦う③ルーズボール、リバウンド、デイフェンス等やりすぎて褒められることをがんばらせる④練習は「神は細部に宿る」⑤バスケット以外もがんだり、人間力を高める。